



「まちに開かれた芸術文化拠点」を目指す京橋彩区が開催する芸術文化講座。2021年6月(第18回)は「他人事ではなく、『自分ごと』としての古美術を」です。公益財団法人永青文庫副館長の橋本麻里さんをお招きし、古美術の新たな楽しみ方についてお話しして頂きます。

< 2021年6月(第18回) >

他人事ではなく、「自分ごと」としての古美術を

ガラスケースの中に展示された作品は、かしまって「鑑賞する」対象で、自分とは縁遠いものと思いがち。ですがそれらの中には、本来何らかの用途のために、「道具」として作られたものが少なくありません。茶道具や刀剣は言うまでもなく、屏風や襖絵なら調度、漆器は食器や文房具、染織品は服飾—という具合。こうした古美術を手に入れ、本来の用途で、あるいはそれぞれの個性や自分のライフスタイルに合わせ、アレンジして使うことも、「作品を楽しむ」ことに他ならないのです。すると美術館の展示作品も、「自分ならほしいか／ほしくないか」「いくらなら買うか」という視点で観られるようになります。それはかつて、同様の眼と執着を持って作品をつくらせた者、蒐集したコレクターと対峙するのと、同義です。作品を観る目をいっそう広げ、かつ深めてくれる、他人事ではない、「自分ごと」としての鑑賞につながる話ができればと考えています。

日 時： 2021年6月16日(水) 18:30～20:00

会 場： 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
「オンライン講座」としてYouTubeにて配信します。

参 加 料： 無料

申込方法： 京橋彩区のお申し込みフォーム
https://kyobashi-saiku.tokyo/application/events/gbkoza_20210616/
右上の**リンクボタン**(またはQRコード)よりお申し込みください。



お申し込みフォーム
(京橋彩区)

※今後の状況により、延期・中止をさせて頂く場合もございますので、あらかじめご承知置ください。

< 講 師 >



公益財団法人永青文庫 副館長 橋本麻里氏

日本美術を主な領域とするライター、エディター。金沢工業大学客員教授。新聞、雑誌等への寄稿のほか、NHKの美術番組を中心に、日本美術の楽しく、わかりやすい解説に定評がある。著書に『美術でたどる日本の歴史』全3巻(汐文社)、『京都で日本美術をみる [京都国立博物館]』(集英社クリエイティブ)、共著に『SHUNGART』『原寸美術館 HOKUSAI100!』(共に小学館)、編著に『日本美術全集』第20巻(小学館)ほか。